

詩篇110篇4節 「とこしえの祭司」

1A 人を造られた神

1B 交わり

2B 罪による離反

2A 祭司による仲介

1B 御子の前の選び

1C 父祖アブラハム

2C アロンによる祭司

2B 律法の前メルキゼデク

3A メルキゼデクの位の祭司

1B ダビデの呼ぶ「主」

2B レビの位以上の方

4A 大祭司の執り成し

1B 弁護者として(肉の弱さ)

2B 敵の罪定めに対して(敵の責め)

本文

私たちは、詩編の学びが 108 篇まで来ました。午後礼拝で、109 篇から 113 篇まで学びたいと思っています。今朝は 110 篇、特に 4 節に注目したいと思います。

主は誓い、そしてみこころを変えない。「あなたは、メルキゼデクの例にならい、とこしえに祭司である。」

1A 人を造られた神

1B 交わり

私たちは、生まれてからこの方、厳しい世界の中に生きています。それは、「贖われていない世界」であります。本来なら、こうであるべき、こうなっていないといけないと思う世界があるはずなのに、そうになっていない世界があります。そして何よりも、自分自身が自由にされていません。こうであるべきという姿があるのに、そうになっていない、そうできていない自分がいます。そして何よりも、この命がいつまでも続くわけでない、多くの人が病に罹り、そして全ての人が死に至ります。これを、聖書的に話すなら「贖われていない世界」ということになります。

聖書はこの世界の初め、すべての初めが神ご自身であることを教えています。神がすべての物を造られて、それら造られたものは「良い」と言われました。そして、被造物の中でご自分の形に似せて造られたのが、人間、人です。神は三位一体の方です。一人の神、唯一神ですが、父、子、

聖霊による三つの人格のある神です。その中には、交わりがあります。交わりによって一体となっている、ということです。神は人を造られる時に、「われわれに似せて、われわれのかたちに、人を造ろう。(創世 1:26)」と言われました。神のうちに一体化した交わりがあるように、神は被造物とも意味のある交わりをすることを願われて、私たち人間を造られました。人が造られている目的、人が生きている目的は、自分を造られた神と交わり、一つとなっていることです。

ところで、聖書で話す交わりは、ギリシヤ語で「コイノニア」というものですが、これは単なる付き合いではありません。「一つになる」という意味です。コミュニケーションという英語の言葉がありますが、それを聞いたらアメリカ事情に詳しい人は、昔のヒッピーたち、東洋神秘にはまり、共同生活をしていた若者たちのことを思い浮かべるでしょう。何でもかんでも一緒にして、共有しちゃうんです。彼らはそれらによって誰が優れているとか競争をすることなく、愛と平和によって一つになろうとしていました。その中で、イエス様を信じて本当の意味でのコミュニケーションを持つことができた人々が現われたのですが。私たちキリスト者が集まり、教会を持っているということは、まさにこの交わりを持つためです。「私たちとの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。(1ヨハネ 1:3)」

2B 罪による離反

ところが、初めに造られた人アダムは、神に言われたことに背いて、罪を犯しました。そのために、その一体となっていた絆が切れてしまいました。そして同時に、神が人に任せていたこの世界、被造物も神から切り離されてしまいました。その結果、今の私たちがいます。贖われていない自分、そして贖われていない世界があります。神から切り離されてしまった個人生活、社会生活、そして全世界があるのです。

2A 祭司による仲介

しかし、神は離れてしまった、ご自分の造られたものを、人もまた世界も取り戻そうとされました。ご自分の御子を人としてこの世に遣わし、その御子にあって世界とご自分を和解させようとしてました。しかしその前に、神は御子キリストを生み出す民族を造られました。イスラエルの民とその国です。

1B 御子の前の選び

1C 父祖アブラハム

神は、カルデヤ、イラク南部にいたアブラハムを呼び出して、「わたしが示す地に行きなさい」と命じられて、アブラハムは旅をしました。そして着いたところが、カナン之地、今のイスラエルです。そしてアブラハムから多くの子孫が出てきて、イスラエルの民、そしてイスラエルの国ができました。

2C アロンによる祭司

そして神はイスラエルに、「これこれを守って生きなさい」と命じられた律法がありました。その律

法の中に、人が罪によって切り離された神との距離を縮めるための制度を作ってくださったのです。祭司制度と呼ばれます。神は聖なる方であり、正しい方です。罪によって汚れてしまった人は、そのまま神のところに近づくことができなくなりました。けれども、神はその罪の対価である死を、動物の身代わりによって受け入れ、それでその流される血によって人の罪を清めることによって、人が神に近づくことができるようにしました。人が持っている罪意識は、その人を悩ませます。自分を罰するような行動を取って行っています。しかし、神は身代わりの犠牲に対してその罪の罰を与えることによって、私たちの罪を赦して、良心を清めてくださる備えを与えてくださったのです。

その動物のいけにえを祭壇の上で捧げるのが祭司の務めです。そしてその流された血を、祭司の中でも大祭司が年に一度、幕屋の至聖所の中に持って行き、イスラエルの犯した一切の罪をそこで贖っていただくために血を携えていきます。それで、イスラエルの民は全体として、神が罪を贖ってくださったことを知るのです。ですから、祭司は民に代わって神の前に出ていく人であり、また民の前に出て、神による罪の赦しを宣言する人でもありました。祭司が神と人との仲介者となり、彼が神に対して民のために執り成しをしてくれるのです。

私たちが誰かに嘆願する時に、どうしても願いを聞いてほしいと願う時に、口を利いてくれる執り成し手を探す時がありますね。相手との間に大きな不和がある時とか、また相手が自分は到底近づくことのできない、大きな権威を持っている人であれば、私たちはそのような仲介者や執り成し手が必要となります。それが、祭司の役目であり、神と人との仲介であり、執り成しをするのです。

この祭司は、モーセの兄アロンから始まり、アロンの家系の者が取り行います。アロン家系でなければ、決して祭司の務めをしてはいけませんでした。それで、イスラエルの王サウルが祭司ではないのにいけにえを捧げて、それで王位を退けられ、ユダの王ウジヤも聖所に入って香を焚こうとしたため、らい病に罹りました。そしてバビロンから帰還後のユダヤ人は、祭司の系図を取り出して、それによって証明できないものは決して祭司の務めをさせませんでした。

2B 律法の前のメルキゼデク

ところが、聖書には不思議な出来事を記しています。アロンとその子孫の前に、祭司の姿が登場するのです。アブラハムの時代、メソポタミア地方から四人の王が、ソドムの王を含む五人の王のところに行き、攻めてきました。それで、ソドムに住んでいたロトとその家族も誘拐し、その財産を奪い取りました。その知らせを聞いたアブラハムは、しもべを連れて、その王たちを追跡したのです。ダンを越え、ダマスコのところまで行き、それで王たちを打ちのめすことができました。ロトたちを奪還できただけでなく、彼らが持っていった分捕り物すべてを取り戻すことができました。

アブラハムが戻ってくると、二人の王が彼を待っていました。一人はソドムの王です。これは分かります、お礼をしにきたのです。けれども、もう一人は不思議な、神秘的な人物でした。シェレム、訳すと平和という意味のところから来た王がいました。名前は、メルキゼデクです。その意味は、

「義の王」です。シャレムは、エルサレムと同じであり、エルサレムから来た、義の王です。そして彼は、「いと高き神の祭司であった」とあります(創世 14:18)。そして祭司は、パンとぶどう酒を持っていました。これは、教会に通っている人々であればすぐに察知します、「あれ、聖餐式でもするの?」と思われたはずです。

そして、メルキゼデクは、アブラハムを祝福します。当時、祝福を与える人は祝福を受ける人よりも上位にいる人です。族長アブラハムよりも、上にいる人でした。そして、アブラハムはメルキゼデクに、王たちから奪い返した戦利品の十分の一を捧げるのです。これも不思議であります、教会生活をしているクリスチャンであれば、「十分の一であれば、それは神に捧げるのでしょうか。」と思うのです。アロンの祭司制度では、祭司の家にイスラエルの民は十分の一を携えてくることによって神に捧げていましたが、アブラハムはメルキゼデクにそれを行ないました。

この出来事は、アロンが出てくる約五百年前の話です。アブラハムの孫がヤコブで、ヤコブの息子の一人がレビで、レビからアロンが出てきましたが、はるか前にすでにその族長が、いと高き神の祭司から祝福を受け、そして十分の一を捧げたのです。ある意味、アブラハムが捧げたということは、その後のイスラエルの子孫全体の代表として、この祭司から祝福を受け、パンとぶどう酒にあずかり、そして十分の一を捧げたのです。

3A メルキゼデクの位の祭司

そして、この出来事の約千年後に、ダビデがキリストのことを預言して、「**あなたは、メルキゼデクの例(位)にならい、とこしえに祭司である。**」と言ったのです。

1B ダビデの呼ぶ「主」

ダビデは、110 篇の冒頭で、「主は、私の主に仰せられる。「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。」」と言いました。ダビデは、後に来られる救世主、キリストを「私の主」と呼んでいます。事実、イエス様は十字架に付けられ、三日目によみがえられて、その四十日後に天に昇られ、父なる神の右の座に着かれました。ユダヤ人の間では、この詩篇がメシヤ、キリストが来る預言であることをしっかり受け入れられていました。

そこでイエス様が、ユダヤ人宗教指導者たちに質問をされたのです。「あなたがたは、キリストがダビデの子であると言っています。でも、なぜダビデは、彼を「私の主」と言ったのですか?」サムエル記第二に、ダビデに対して主が、「あなたの世継ぎの子が国を治めて、それは永久に続く。」と神が約束されました。神の国を建てる方、キリストがダビデの子であるという預言があるのです。けれども、ダビデのずっと後に出てくる子を、どうしてダビデが自分の主と呼んでいるのか?という質問です。

これに、ユダヤ人たちは答えるのは困りました。一つは、なぜ紀元前千年ぐらいに生きていたダ

ビデが、ずっと後に出てくる子が生きている方として、「主」と呼んでいることです。キリストが、ベツレヘムで赤ん坊として生まれる前からすでにおられたことを示しています。イエス様は、ユダヤ人たちとその前に、議論をしておられました。彼らは、「あなたはアブラハムよりも偉大なのですか。」と尋ねました。イエス様は、「あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見るために大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです。」と言われました。「何？二千年前に生きていたアブラハムより前に、あなたは生きていたと言うのか？まだ五十歳になっていないのに。」と言うと、「まことに、まことに、あなたがたにいます。アブラハムがいた前に、わたしはあるのです。」と答えたのです(ヨハネ 8:53-58)。英語ですと、”Before Abraham was, I AM.”となっています。イエス様は、ご自分が二千年前、アブラハムがいた時よりも前におられたし、「わたしはある」と言って、永遠に存在し、生きていることを示されたのでした。

さらに、ダビデの子を、ダビデ自身が「私の主」と呼んでいるのは、親子関係を考えるとあり得ない話です。族長制の名残のあるその時代に、子が父を、「主よ」と呼ぶことはあっても、父が子をそのように呼ぶことはあり得ないことでした。ここに、キリストが人間の関係をはるかに超えた方であることを教えています。

2B レビの位以上の方

ですから、ヘブル書におけるメルキゼデクの解き明かしにおいて、彼は、「7:3 父もなく、母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっているのです。」とされているのです。聖書学者の中には、メルキゼデクはイエス・キリストご自身であるという解釈をしている人々もいます。キリストが、ベツレヘムで赤ん坊として生まれる前に、旧約時代に現われた出来事の一つではないか、と考えます。

いずれにしても、レビ系の祭司よりもはるかに超えたところの、永久の祭司としてキリストが定められたということなのです。そして、祭司は動物の血を携えて聖所の中に入りましたが、キリストはご自身の流された血を携えて、父なる神のおられる聖なる御座のところに行かれたのです。そして、年に一度ではなく、ただ一度、永遠の罪の清めを行なわれたのです。数多くの方が、イエスを自分の主として信じることに抵抗を覚えることがあります。それは、「なぜ二千年前にイエスが十字架につけられたことが、今の私に関わりがあるのか？」という疑問です。その解答は簡単です。二千年前であっても、その血はとこしえの罪の清めのために流されたものなので、二千年後にいるあなたの罪のためにも、流された血であったのです。

4A 大祭司の執り成し

ですから、今、みなさんにとってイエス様こそが、自分の罪を取り除き、清めてくださる方で、神のところに行くことのできるようになっておられる、仲介者であり、大祭司となっております。「ヘブル 4:14-16 さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。私たちの大祭司は、私

たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」

すばらしいですね、神はキリストにあって、私たちの肉体の弱さをすべて知っておられます。今日、もしかしたら風邪を引いていることも、神はキリストにあって知っています。同じ肉体を持っておられたので、その弱さをすべてご存知です。イエスは誘惑も受けられました。だから、誘惑を受けた時も、それがどのようなものかを知ることができます。「この試練や誘惑は、誰にも分からない。」と思っておられる方、いいえ、試練は世の常の物ではないものはない、という言葉がコリント第一にありますし、仮に誰も知らなくても、イエスご自身はじっくりと知っておられます！

そして、私たちは聖なる神、正しい神のところに近づくの、ためられます。こんな汚れた自分、不完全な者がどうやって神に近づくことができるのか？もっと自分の身を清め、正してからではないといけなのではないかと思われるかもしれません。いいえ、ここには「あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」とあります。神の座っておられる玉座は、裁きの座ではなく、恵みの座に代わったのです。受けるに値しない助けを、大胆に受けることができるようにしてくださいました！

1B 弁護者として(肉の弱さ)

キリストが私たちの仲介者になってくださった、ということで、私たちは二つの特権を得ることができています。それは、最高の弁護士が自分についていてくださっているということです。「1ヨハネ 2:1-2 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。この方こそ、私たちの罪のための、..私たちの罪だけでなく全世界のための、..なだめの供え物なのです。」

私たちが造られた目的は、神と交わりをすることです。そして使徒ヨハネは、御父と御子との交わりを私たちがすることができ、それで喜びが全きものとなるのです、と話しました。ところが、それを邪魔するのが罪です。罪を犯せば、私たちと神との間に亀裂が走ります。罪を告白して、罪から離れなければいけません。けれども、たとえ罪を犯したとしても、主は私たちのために父の前に出て、弁護してくださるのです。もう既に、わたし自身が清正の罪のためになだめの供え物となりました、と弁護してくださるのです。私の正しさを弁護するのではなく、ご自身の正しさを主張して、それでその義を私に移したのだと主張してくださいます。

私たちは、絶えずこの方の執り成しを必要としています。すでにすべての罪を清めてくださったキリストですが、その清さの中にあることができるように、いつも私たちのために死なれたことを、父なる神の前で執り成しておられるのです。ゆえに、私たちは罪の清めにあずかっただけでなく、

罪からの清めの中に留まることができるように、キリストが執り成しをさせていただきます。

2B 敵の罪定めに対して(敵の責め)

そして主は、父なる神の前に対して執り成しをされるのは、私たちが敵の攻撃に打ち勝つためです。ローマ 8:31-34 を読みます。「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあります。神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです。」

パウロはこれを、困難や迫害に遭っているローマの信者のことを思って書いています。私たちがキリスト者として、その良心にしたがって語り、動こうとすると、必ず敵は攻撃します。その結果、自分が神から見放されてしまっているのではないか？私は間違っているのではないかと苦悶します。しかし、絶対にそんなことはないと言っているパウロは、励ましているのです。第一に、神は私たちの味方です。第二に、何かを失ったとしても、神は御子を私たちにくださったのですから、御子にあってすべてのものを恵んでくださるのです。第三に、神が義と認めておられるのです。だから誰が訴えても、それには効力がありません。第四に、キリストが神の右の座で、私たちのために執り成しておられるのです。

キリストのこの執り成しによって、私たちには神の愛が注がれます。この方が、私たちが敵によって罪定めにあうところから守ってください、そのような困難にあってもそれでも圧倒的な勝利者としてくださるのです。キリストにある神の愛はどんなものでも、私を引き離すことはないと言われてきています！これが、キリストが私たちにとって、とこしえの祭司、メルキゼデクの位におられる特権です。

未だ、自分が神からも、人からも切り離されていると感じているでしょうか？キリストが神から切り離され捨てられた方となりました。それゆえ、私たちの壊れた神との関係を修復することがおできになるのです。